

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
地域作業療法学		必修	2	3	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
浅野 克俊	C313	k.asano	木曜 14:40~16:10		
授業の目的・概要	地域包括ケアシステムの推進と共に、作業療法が対象とする領域は、医療機関に留まらず地域支援にまで広がっている。本科目では、介護保険をはじめとする諸制度との関わりや地域作業療法の一連の過程を学ぶ。地域作業療法学の一般的な知識を講義中心で学び、事例を使用し地域作業療法における臨床推論について理解を深める。なお、授業はすべて遠隔にて同時双方向型の方法で行う。				
学習上の助言	これまでの地域生活で見聞きしてきた生活支援に関する事、実習を通して学んだ実際の支援場面を振り返りながら講義に臨むことが望ましい。				
教科書	大熊 明/加藤 朋子 編 地域作業療法学 (標準作業療法学 第3版) 医学書院				
参考書	適宜、プリント資料を用いる				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	地域作業療法の概要が説明できる。			OT (1) OT (2)	
②	地域作業療法に関わる制度、社会生活支援、他職種との連携・協働について説明できる。			OT (2) OT (3)	
③	評価から目標の設定、プログラムに立案、実施、再評価という一連の流れを理解できる。			OT (2) OT (3)	
④	様々な地域支援サービスについて、事例を通して理解できる。			OT (2) OT (3)	
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	「地域」と「地域づくり」の捉え方、地域医療と地域リハビリテーションの背景と変遷を学ぶ	同時双方向型授業	地元の地域の特色を考えてくる。	1	
2	日本における人口動態、社会保障制度、介護保険制度、地域包括ケアシステムについて学ぶ①	同時双方向型授業	教科書、プリントを読んで復習する。	1	
3	日本における人口動態、社会保障制度、介護保険制度、地域包括ケアシステムについて学ぶ②	同時双方向型授業	教科書、プリントを読んで復習する。	1	
4	地域作業療法と生活障害、作業の意義と適応、ソーシャルサポートについて学ぶ	同時双方向型授業	教科書、プリントを読んで復習する。	1	
5	地域における医療・介護・福祉専門職と地域作業療法の実践の場について学ぶ	同時双方向型授業	教科書、プリントを読んで復習する。	1	
6	ケアマネジメントを基に地域における連携、他職種の業務と役割を学ぶ (事例検討) ①	同時双方向型授業	教科書、プリントを読んで復習する。	1	
7	ケアマネジメントを基に地域における連携、他職種の業務と役割を学ぶ (事例検討) ②	同時双方向型授業	事例検討を進める。	2	
8	ケアマネジメントに基づき地域における連携、多職種の業務と役割を学ぶ (事例検討) ③	同時双方向型授業	事例検討を進める。	2	
9	ソーシャルサポート、住環境整備について学ぶ	同時双方向型授業	教科書、プリントを読んで復習する。	1	
10	評価の視点、目標の設定、支援の計画について学ぶ・個別支援プログラムについて学ぶ	同時双方向型授業	教科書、プリントを読んで復習する。	1	
11	地域作業療法の実践事例を検討しまとめる (事例検討) ①	同時双方向型授業	1~10 回までの内容を復習する。	2	
12	地域作業療法の実践事例を検討しまとめる (事例検討) ②	同時双方向型授業	事例検討を進める。	2	
13	地域作業療法の実践事例を検討しまとめる (事例検討) ③	同時双方向型授業	事例検討を進める。	2	
14	集団支援プログラム、地域づくり、地域生活移行、就労支援について学ぶ	同時双方向型授業	教科書、プリントを読んで復習する。	1	
15	地域作業療法のエビデンスと今後の展開について学ぶ	同時双方向型授業	教科書、プリントを読んで復習する。	1	
試	期末試験				

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		80	0	20	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	50	0	5	0	0	55
	思考・推論・創造する力	30	0	5	0	0	35
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	5	0	0	5
	問題を発見・解決する力	0	0	5	0	0	5
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	学期末に定期試験を実施して評価する。試験は、講義で学んだ教科書・配布プリント・板書ノートの内容に基づく問題、および応用問題を出題し、理解度を問う。				研究室 (C313) もしくはリモート等で試験結果を個別に開示し、解説を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①	✓	【6~8 回目の講義】 地域在住高齢者の事例を使用する。自宅でいきいきと過ごすことが継続できるようにケアマネジメントの考え方に沿って検討し、所定の用紙にまとめ提出する。専門職の連携方法やケアの方針を適切に検討できたかを評価する。 【11~13 回目の講義】 10 回目までの講義で学んだ知識を活かし地域作業療法で関わる事例を検討し、所定の用紙にまとめ提出する。生活行為向上マネジメント (MTDLP) を使用し適切な評価と治療計画が立てられるかを評価する。				研究室 (C313) もしくはリモート等で評価点を個別に開示し、解説を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>担当教員：◎浅野克俊</p> <p>Teams を使用した同時双方向型授業を行います。授業時は通信容量が無制限に使用できるインターネット環境を推奨します。今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更の可能性があります。</p> <p>教員の実務経験：本科目を担当する教員は作業療法士として病院・施設・在宅において、地域生活を目指す回復期から生活期までの幅広い層に対して 10 年以上の実務経験を有している。</p> <p>実践的授業の内容：テキストと併せて臨床で得た知見に基づき講義を展開する。また、地域生活を目指す対象者や実際に在宅生活の維持向上を図る対象者への介入場面を画像や映像を踏まえて解説し、学生の理解を深める一助とする。</p>							